



お問い合わせ先:

Busola Afolabi

米国がん協会

(404) 417-5894

busola.afolabi@cancer.org

ランス・アームストロング財団および米国がん協会が、日本で患者エンパワメントプロジェクトを開始

財団では、患者の実情を共有し力づけるがん患者フォーラムを支援

モントリオール--(Marketwire - 2012年8月30日)- 本日ランス・アームストロング財団は米国がん協会 (ACS)や日本側主導機関の日本医療政策機構 (HGPI)と提携して、患者エンパワメントプロジェクトの開始を発表しました。発表は、World Cancer Congressでの「グローバルながん撲滅活動でサバイバーを力づける革新的戦略」セッションで行われました。

患者エンパワメントプロジェクトは、がん患者がフォーラムで政策立案者、メディア、公衆などの前で証言して、患者の実情について情報共有できるようにし、がん治療に関する国内問題を提起し、対応することにより、患者の声を高めるように設計されました。

「我々の目標は、日本で草の根運動を確立することです。」と、財団の会長でCEOの Doug Ulman は述べました。「長期的には、患者エンパワメントプロジェクトは、がん対策でのギャップを目に見える形にし、がんを国の医療・保健計画の最優先項目とするというニーズを強調するために、患者の声を強調していきます。」

「がんは、30年以上にわたって日本の死因の第1位であり続けていますので、我々は今こそ、変化を起こし、より多くの命を救うために動かなければなりません。」と、米国がん協会CEOの John R. Seffrin (PhD)は述べました。「日本の患者エンパワメントプログラムは、我々がグローバルながん撲滅組織として、全世界のがん問題の解消に向けて進めなければならない多くの重要なステップのひとつであり、がん患者がその国でよりよいガン治療を受けられるように、擁護活動を通じて、がん患者を力づけます。」

フォーラムのコースを通じて、専門家により、主要ながん問題を説明する特化データのプレゼンテーションが行われます。また、患者が大衆の前で体験談を語ることで、そのデータの裏付けをし、現実感を与えます。フォーラム後数週間または数か月以内に、患

者や NGO の推奨内容を詳しく説明し、政策立案者や他の重要なステークホルダーに対して、フォーラムで提起された問題に対して対処するように呼びかける全国的な Call to Action を設計し、発表し、広報活動を行います。

患者エンパワーメントプロジェクトのコンセプトは、UICC (Union for International Cancer Control)により 10 年前から支援されている一連のがん患者フォーラムから、ヒントを得たものです。2010 年に財団と協会は、UICC により開始された取り組みに加わり、各国の組織との協業を始め、今やその活動は、両団体にフォーラムを計画する資金を提供するだけでなく、それを実施するためのトレーニングとリソースを提供するフレームワークを作る主要がん擁護活動にまで成熟しました。パイロットプログラムは、南アフリカで実施され、2011 年 5 月には第 1 回患者フォーラムが開催されました。そのすぐ後に、財団と協会はメキシコで同様の取り組みを開始しました。

今年、財団と協会は、日本医療政策機構(HGPI)とチームを組み、草の根的に行われている活動を支援し、がん政策立案プロセスでの患者参加をさらに促進するために力を合わせて取り組んでいきます。

「日本でのサバイバーエンパワーメントキャンペーン開始を発表できることを大変嬉しく思います。」と HGPI 理事の黒川清氏は述べました。「我々ひとりひとりが、これらの施策の必要性について認識し、何をすべきかを考え、行動を起こすことが大切です。」

2008 年には、全国的ながん対策計画の準備や実施を行っていた国は、世界で 50 か国以下でした。また、全国的ながん対策アジェンダのある国でも、物理面、感情面、実践面でのがん患者のニーズの点では、医療制度に大きな不足や障害がありました。これらの問題は、データ不足や、がんレジストリーの不足、不適切な保険補償内容の他に、患者の治療に直接影響する意思決定プロセスから患者が除外されていることなどがありました。しかし、がん患者とその家族は、国内の医療制度の何がうまく行っており、何に対応が必要かについて、明らかにする手助けができます。患者エンパワーメントプロジェクトには複数の国が参加していますので、国際的な患者擁護活動が生まれてくると期待されます。

2011 年 3 月 11 日には日本の東北地方で 9.0 の地震が発生し、130 フィートの津波が襲い、福島第一原発でメルトダウンが起きました。その結果、15,960 人が亡くなり、破壊により 2200 億米ドル以上の損失がありました。被災地のほとんどすべての病院が破壊され、多くのがん患者の治療と支援が中断されました。

ランス・アームストロング財団は、日本の地震に影響を受けたがん患者に対してサポートを行い続ける必要性を認識しています。財団と主要パートナーの RadioShack は、被災地でのがん治療、サバイバーシップ、がん支援プログラムなどの運用のための救済助成金の資金集めを行いました。この支援金は The Public Health Institute(オークランド)、オンコロジー教育推進プロジェクト、東北 Re-Life 311、医療社団法人鉄祐会(石巻祐ホームクリニック)、キャンサーネットジャパンへ授与されました。

ランス・アームストロング財団について

ランス・アームストロング財団は、がんに悩まされている人々向けのサービスを行い、世界でも特に多い死因であるがんに対して、行動を起こせるように支援しています。活動の象徴である黄色い **LIVESTRONG** リストバンドで知られる当財団は、全世界のがんに悩む人々の希望とインスピレーションのシンボルとなっています。1997年のがんサバイバーで自転車競技チャンピオンのランス・アームストロングにより設立されたこの財団は、がんに伴う金銭的・感情的・実地的な困難に直面しているサバイバーに無料の患者ナビゲーションサービスを提供しています。「LIVESTRONG」という強力なブランドで知られる当財団は、また、がん患者 2800 万人に変わって、世界的活動をリードしています。財団の集めたがんと闘うための寄付金は、1997年の創立当初から今までに 5.50 億米ドルに達しています。詳しい情報は LIVESTRONG.org/global をご覧ください。

米国がん協会について

米国がん協会は、命を救い、がんによる苦しみを終わらせるために、ゆるぎない情熱を持って、一世紀近い経験を活かしています。300 万人以上のボランティアと 20 か国以上のプログラムを動かす世界的な草の根活動組織として、全世界の地域共同体の患者の皆様が、健やかに次の年を迎えられるように努力しています。協会では、次のような活動で人々の命を救っています。がん予防やがん早期発見による人々の健康の維持。がん診断中および診断後につきそうことにより、人々の回復の支援。画期的な発見に投資を通じた治療法の発見。立法関係者を集結して、がん撲滅のための法律を可決させ、全世界の人々を集結して活動を支援することにより、がんを阻止。がん研究への投資をリードする組織として、協会では、がんについての知識をがんに対する施策へと活かしています。受けられる支援について、またはグローバルプログラムについての詳しい情報は、www.cancer.org/global をご覧ください。

HGPIについて

日本医療政策機構（HGPI）は2004年の設立当初より、市民主体の医療政策を実現すべく、独立のシンクタンクとして、それまで行われていなかった幅広いステークホルダーの結集を実現し、社会に新しい政策議論の場を提供してきました。多様な価値観を尊重し、グローバル社会における個人の責任ある行動に基づく、持続可能でより豊かな社会を実現するために、新しいアイデアや価値観を提供し、グローバルな視点で社会にインパクトを与え、変革を促す原動力となることを目指しています。HGPIは特定の政党、団体の立場にとらわれず、独立性を堅持するという行動指針にもとづき、将来を見据えた幅広い観点から、政策に関心を持つ市民に選択肢を提示し、調査分析のみならず多分野のステークホルダーを結集し、創造性に富み実現可能な解決策を示すべく活動しています。詳細は、www.hgpi.org をご覧ください。